

令和5年度 第1回 国産材の安定供給体制の構築に向けた
九州地区需給情報連絡協議会 議事録

- 1 日時:令和5年6月2日(金)13:30~15:30
- 2 場所:ウェブ会議 (Zoom)
- 3 出席者:別紙のとおり
- 4 議事次第及び配布資料:別紙のとおり
- 5 概要

(1) 冒頭挨拶

○九州地区需給情報連絡協議会 田中会長 (株)九州木材市場 代表取締役)

本年度事務局を受け持ちます、株式会社九州木材市場代表取締役の田中昇吾と申します、昨年に引き続きどうぞ一年間よろしくお願ひいたします。平素より九州地区需給連絡協議会にご協力いただきまして誠にありがとうございます。台風により、梅雨前線が刺激され全国的に雨模様になっております。四国地方や近畿地方では線状降水帯が発生している可能性があるようです。本当に被害がでないことをせつに願うところです。本日は第一回九州需給連絡協議会となります。本年度はもう一回の開催を予定しております。何卒また参加のほどをお願いいたします。新型コロナウイルス感染症明けの将来を見据える為にも活発なご議論お願ひしたいと思ひます。本日はどうぞよろしくお願ひいたします。

(2) 議 事

○NPO法人 活木活木 (いきいき) 森ネットワーク 遠藤理事長 (以下、座長)

改めまして遠藤でございます。今日の2時間程度ですけど、長丁場になりますけれどもどうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、議事に入りたいと思ひます。前回の会議は令和5年1月に開催されました。建材全般の値上がり等により住宅単価はあがりました。特に持ち家の着工戸数減に影響しているという状況がありました。前年の特に前半の輸入材入荷量の増加や住宅の需要減により部材によっては流通在庫がなかなか消化できないといった状況もみられました。加えまして、為替や木材需要が不透明なところから見通しがたたない状況を不安視する声も多く聞かれたところでした。その一方で輸入材リスクが顕在した中で国産材への期待であったり実際に新たに国産材活用が定着したという意見もありました。これらの流れをうまく今後につなげていければいいんじゃないかなと思ひます。そこで本日は、まず議事の1として林野庁から需給動向や予算措置に加えましてクリーンウッド法の改正についての資料のご説明を頂きたいと思ひ

ます。その後、直近の需給の動向について皆様方から情報共有や意見交換を頂きたいと思います。今回は九州地区の需給協議会ですので全国的な傾向と異なって九州独特の現象もみられると思います。例えば、東京首都圏におきましては製材品、国産材の製材品価格の下落が顕著に見られるのですが、九州に限って申し上げますとそれほどでもないということで、私なりに考えますと北部九州、特に消費地の佐賀、長崎において住宅着工件数、新設件数が堅調に動いているというそれに支えられたということだと思っておりますが、これが今後どうなっていくのかなというあたりも少し皆様方に共有していきたいと思います。それでは、まず林野庁から永島班長さんから資料のご説明をお願いしたいと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

○ 林野庁 永島 課長補佐
資料1～4説明

○ 林野庁木材利用課 齋藤補佐
○ 資料5説明

○ 遠藤 座長

永島班長さん、木材利用課から懇切な説明がございました、ありがとうございます、ご苦労様でございました、今までの林野庁からの説明につきましてなにかご質問ありますでしょうか。よろしいでしょうか、それでは時間も限られておりますので議事の2、3ということで需給動向の報告と意見交換に移りたいと思います、需給につきましては先ほど永島班長ほうから詳細なご説明がありました、直近の製材品輸入量については引き続き抑えられている状況です。東京埠頭の製材品在庫量も昨年の夏以降徐々に減少しております、その一方で国内では木造住宅が中心である持ち家の需要が伸びずに輸入材国産材ともに製材品価格は下落傾向にあるものの、いわゆるウッドショック以前よりは高値円域で推移している、原木価格についても地域差はあるものの製材品の動向が影響し、下落傾向があるということでした。

そこで、川下の建築業者からご指名をして参りたいと思いますので、林野庁のご説明で示された統計的な情報なども踏まえて、持ち家や分譲住宅また非住宅それぞれにおける受注状況や今後の見通し、あるいは価格の転化状況、木質資材における需要の変化等の状況や国産材の活用拡大の事例等について、情報提供をお願いいたします。時間も限られておりますので、申し訳ないですがお一人2分程度を目処にお願いしたいと思います。まず、木住協のほうからお願いできますか。

○ 一般社団法人 日本木造住宅産業協会 九州支部 清水 事務局長

直近で言いますと、やはり木材価格が上昇してですね、かなり下がってきてはいるのですが最終製品である住宅の価格はまだまだ高値になっておまして、受注に関してもさらに横ばいが続いていて、この4月でもまだ価格改定していくメーカー等

もまだありますので、今後の住宅の受注に関してはかなり厳しい下落傾向にあるのかなというところではあります。まだまだ、やはり着工棟数が2019年ごろに戻るとことはまだだいぶ先の方になるのかなという見通しでございます。

○遠藤 座長

続きましてJBN全国工務店協会さんお願いできますでしょうか。

○一般社団法人 JBN・全国工務店協会 新町 監事

木住協さんと全く一緒ですね、先行きが見通せない感じです。建物としては建っているところがあるのですが、やはり建て売り住宅は、大手の建て売り業者さんの建て売りが多いということで地元の工務店としてはなかなか苦しい状況です。先ほど言われましたけど建設物価、建材等が高騰して全く先行きが心配です。

○遠藤 座長

一般論として九州だけに限らず受注がなかなか難しい面を強いられているのに対して分譲のほうは、まあまあうまくいっていると。この違いというのはどういったところに原因があるのでしょうか。

九州に限っても、分譲のほう注文住宅よりもそれなりの勢いがあると、この違いはどのへんにあるのでしょうか。

○一般社団法人 JBN・全国工務店協会 新町 監事

それは、総体的に土地の価格と建物の価格合わせると、所得が低い方のローンが組めないということとか、全く価格が予算的にオーバーしてしまって、建て売り物件とかマンションのほうにいかれる方がおられるということですね。注文住宅が全くないわけではないのですが、余裕の有る限られた方になってきている状況ですね。今後はいい住宅と建て売りと二極化するのではないかと思います。

○遠藤 座長

それではプレカットからお願いします。

○原田木材株式会社 原田 代表取締役社長

プレカットの状況は、5月に関してはかなり皆さん落ち込まれたと思っております。話を聞いていますと、二割から三割、ひどいところはそれ以上稼働率が落ちていっていると聞いております。営業に関して、営業力が強いところがものすごく弱いところを駆逐している状況です。当然、価格競争が激しく、機械を動かすために薄利でもかまわないという取り方をされているところがいらっしゃいます。建て売り分譲に関しても、大手の建て売り会社のストックがかなり多いということで新規の発注を絞りかかっているという話も聞きますので、大手をやっているところは5月より6月が厳しくなってくるのかなと思っております。木材の価格動向ですが、ある程度今、これ以上急激な値下がりということはないと思いますが、プレカット工場に関

しては去年までの高い木材在庫等のストックがありますので、平均単価は非常に下がってきているが、今の相場で物を売っています。かなり利益は苦戦している状況です。

○遠藤 座長

質問があるのですが、例えば米国のシカゴの木材の先物価格動向を見ますと、すでにウッドショック以前の価格に戻っていますが日本の場合は徐々に下落はしているがウッドショック前にいっていない、ここの状況はどう見たらよろしいでしょうか。

○原田木材株式会社 原田 代表取締役社長

大手のアパート会社がありますよね、そこが第二クォーターはオールスキップということでした、第三クォーターでおそらく半分くらいの50%くらいの発注だろうと聞いています、2×4関係、米加材関係はですね。欧州関係の集成材に関してはなかなかオファーが入ってこないということで、第三クォーターを非常に心配している状況で、私どものような会社でもヨーロッパのサプライヤーが直接営業に来る状況です。ただ、値段、価格はというと最低500ユーロは欲しいと、集成材に関してはですね。そういう状況を言っていましたので、今ユーロが150円くらいですから、かけていただければと。第二クォーターより少し高い価格で希望されているのではないかなと思っております、ただ量を出せると。ウクライナからのラミナも入っておるということでした。

○遠藤 座長

皆様方がいかがでしょうか。木住協、JBN、全国工務店協会、プレカット、全建総連、全建総連はご発言されましたでしょうか。

○九州地協 福岡県建設労働組合 住宅対策担当書記 池田

今、4月5月の動向を全国集計しているところでして。もうすぐしましたら結果が出ると思います。今おっしゃったように、受注減少は続いている状況で、先行きは不明という回答が大半かとは思っています。

○遠藤 座長

木住協さん、JBN、全国工務店協会、全建総連、プレカットを代表して原田木材さんからコメントを頂きましたけれども、今のご発言になにかご質問、あるいはご意見はありませんでしょうか、特に持ち家への分野で需要への低迷が続いている状況がかなり厳しいということで、今後の販売状況が好転、その一方で今後の販売状況好転といった見込みもあり、今後に期待したいところであるといったところですね。非住宅分野については仕事はある程度あるという声が聞かれましたが、需要の回復と国産材製材品の安定的な供給がうまくかみ合うような今の原田社長にあったように、クォーターごとのオファーが日本国内の製材品と需要とどうマッチングしていくのか、このあたりが非常

に微妙なところがあるように私はしましたがご質問ご意見はございますか。永島さんどうぞ。

○林野庁 永島 課長補佐

座長、ありがとうございました。原田様にお尋ねしたいなと思ったのですが、まだ去年の木材の在庫があるという発言だったと思うのですが、報道などで、ある程度流通在庫も調整されてきたというのを拝見しました。今在庫が多いということ、通常と比較してどうかということをお教えいただきたいです。

○原田木材株式会社 原田 代表取締役社長

東京の港では期間がありますので港の在庫は減っていますが、余所の倉庫等に移動されているという話です。例えば国内の集成材メーカーに関してもラミナが山積みになっているということです。それと、関東の方の大手の工場も今年いっぱいはあるというような話もお聞きしました。それで、平均単価をだすと、今の相場よりも二万円、三万円高いところをついてるのではないかと、今のところ。九州は、国産材が普及しているのでそこまで欧州や米国の資材は少ないと思いますが、それでも今まで国産材は一般の木造住宅ですと、240ミリ間くらいまでスギを使っていたのが、だんだん、五寸、150ミリ180ミリにスギを使って、それから上の寸法は米松のKD材になっていくとか、集成材になっていくとか、少しずつ使う国産材の量が私たちのプレカット工場に関しても減ってきている状況になってきております。どれくらい量的にと言われれば、いろいろ各社違うとは思いますが、弊社でいうと夏すぎくらいまでは単価の高い在庫を持っている状況です。

○遠藤 座長

わたしからの質問からなのですが、輸入材徐々に日本国内において在庫調整がされている中で、国産材の使用量が減っているという状況はどうみたらよいですか。

○原田木材株式会社 原田 代表取締役社長

全体的な数量が住宅の数が減っているということと、やはり先ほど言いました平角関係、特に南九州あたりは八寸くらいまでスギを使っていますから、こういうのが少しずつ減ってきているということです。一番大きいのは三割ほどプレカット工場の稼働率が落ちている、その辺がきているのではないかと。国産材と例えば米材、欧州材の価格が逆転しているものもあるので、在庫がないところはそういったところを使っていくと思いますので、材種が変更になるということはあるかとは思いますが、今、ハウスメーカーはすごくコストダウン要請が強く、少しでも安く。去年、おととしと木材が高かったですが、今は生コンとかが今度は上がりはじめてですね、建材、生コンあたりが上がっていますので、今度は少しでも木材を下げてくださいという依頼が多いです。

○遠藤 座長

住宅用の製材品の価格を下げるといふインパクトというのはいくつあるのですか。

○原田木材株式会社 原田 代表取締役社長

あります。まず、競合で競わされて、ウッドショックの期間は競わされるということではなかったのですが、今は2社、3社と競わされて、一番安いところに発注すると、それも大量に発注すると。皆さん思い切って値段をつけてきます、そうすると、今の相場でいくと若干の利益が出るとしても会社の平均単価でいうと赤字も出るという状況です。

○遠藤 座長

永島班長よろしいでしょうか

○林野庁 永島課長補佐

はい、ありがとうございます。

○遠藤 座長

そのほかに今のご発言に対して、ご質問、ご意見ありましたらご遠慮なく、挙手をお願いできたらありがたいですが。よろしいでしょうか。それでは、また最後に統括的な意見交換をしますけれども、時間も限られていますので、川中のほうの方々をこちらでご指名いたしますので、原木確保、製材品、集成材や合板も含めた生産の状況、需要の変化等の状況、今後の生産体制に対しての考え方、国産材の活用拡大についてお伺いしたいと思います。申し訳ないですが、おひとり2分程度の状況提供をお願いいたします。まず、製材・集成材のほうですが、中国木材の日向からご参加されていると思うのですがいかがですか。

○中国木材株式会社 日向工場 林 工場長

中国木材の林です、基本は集成材の担当ではあるのですが、まず集成材のお話からしますと、我々、九州だけの販売だけではなく全国へのスギの集成管柱の販売になりますけど、三月の販売は80%から90%という状況です。生産は昨年9月以降、前年割れの生産量です。特に11月から2月にかけては前年比70%から75%の生産量ということで、他社に先駆けて早めに在庫調整に入ったつもりではいるのですが、今の受注状況、プレカット在庫状況からするとまだもう少しばかりかかりそうだなと思っております。

話は重複しますが、弊社もプレカット5工場をもっておりますが、かなり受注残がない、見積もりがない状況で、この近年で見ると非常にまずい先行きになっている実情です。我々、中国木材自体は2月と4月に大幅な製品値下げを行っているが、ハウスメーカーからの強烈的な値下げ要請があり、それを飲まないで海外の製品をいれるということで。ウッドショック時にいい流れになった国産材化の流れはハウスメーカーからすると、受注の落ち込みを挽回するためには、住宅の価格を下げるしかない、その矛先が今木材に向いている。先ほど原田社長がおっしゃったとおり、住

設、建材が上がるなかで木材への値下げ要求は非常に強いということで、我々も思いきった値下げをうって、なんとか、国産材のシェアを維持できるように努めて、結果的に海外の製品の成約量を半分くらいにできたので、先につながる値下げだとは思っておりますけれども、非常に厳しいですね。

弊社の持っているプレカット工場も相見積もりが激化して、とにかく、安い樹種を使うことが重要です。今までの国産材化の流れから安い木材、そういう流れになってきているのが非常に苦しいところでもあります。あと、全国的な流れで申しますと一部のアイテム、例えば、乾燥の間柱が不足しているエリアがでてきたりとか、アイテムやエリアで少なくなってきたり物もありますので、その辺がうまく回っていけば、秋くらいには少し動きが出てもいいのではないかと、という風に今は感じているところです。製品価格につきましては非常に厳しいです。我々集成材で申しますと東北のメーカーさんが安い価格で九州、中国地方まで集成材の柱を商社経由で持ってきており、競争はまだまだ厳しい、工場としては赤字状態が続くなど思っています。

○遠藤 座長

貴重なご意見をありがとうございました。大変参考になりました。製材から大分県日田の瀬戸木材の瀬戸社長お願いします。

○瀬戸木材 瀬戸社長

私のほうから現状をお話しさせていただきます、現状としてはかなり全体的に厳しい状況です。もうひとつは地域的なものもあります、中央ほどよくて九州、地方ほど落ち込みが激しい、根本的な人口問題がウッドショックで隠れていたのが顕在化している状況です、一方で設備状況はあり、ウッドショックにより生産能力、加工能力は増えているので、そのギャップで競争激化が起こっている、設備したものは動かさざるを得ない、以前でしたらそこそこの加工キャパにあった受注量だったが、今の設備だと受注不足、取りに行かざるを得ないということが競争に拍車がかかり、お互いに価格を下げ合戦をやらざるを得ないという状況、これは住宅産業すべて、私どもも、もちろんですが末端の住宅会社もそんな形に現状なっているのかなという気がしています。

ただ、私どもの業界で一番違うのは合板さんの生産価格維持力、在庫調整をきちっとやれるところと、私どものつくってなんぼの世界と、違うところを見せつけられています。このあたりは学ばなければならないところではないかなと、その力をつけなければならない、単に値段でシェアをとっても行き着くところは、と感じています。ただ、すべてを悲観するわけではなく、ウッドショック前と後では、為替の違いがあり、ドル建てユーロ建て価格が出ていましたが、当然、3割近くの円建ては大きなアドバンテージであり、ウッドショック後、元の木阿弥になっているとも言われますが、これをうまく利用することで何らかの話ができないかと思えます。

とはいえもう少しの辛抱、輸入材の底値は見えてきた、これから需要がどれだけ出てきてくれるのか、もう一踏ん張りかなと思います。

○遠藤 座長

瀬戸社長のご発言非常に貴重で、日合連を主体とした合板業界全体の価格なり在庫を調整していくこと、製材業界では至っていないということ1つの課題が浮き彫りになった感じを受けました。それでは、製材から外山木材さんお願いします。

○外山木材 中井専務

中国木材さん、瀬戸木材さんのお話にあったとおり、製材に関してほとんど同じです。また、原田社長がおっしゃったとおり、プレカット工場さんの稼働率が2割、3割になっている状態で、在庫量も調整しているため、我々の販売量も落ち込んできています。

現状で、製品販売量が2、3割ダウン、製品価格も2、3割ダウンしています。その結果、製品売上も6割ほど落ちこんでいる状況です。製品価格について、ウッドショック後、緩やかに下落していましたが、ここに来て大手ハウスメーカーなどからの圧力によりスギの集成管柱の価格が急落したため、我々のようなスギのKD材を作っているメーカーも値段を合わせなくては行けない状況となりました。プレカット工場等においても価格競争が激化しているため、我々にも影響がきている。

また、弊社の丸太入荷に関しては素材業者からの直納が8割を占めています。素材業者に対しては、製品価格が下落しているなどの現状を説明していますが、原木価格は依然として高いまま、今後更に製品価格が下落すると非常に経営が厳しいです。本当は市場の原木価格は下がってきているので、市場で買いたいが、素材業者との付き合いもあるので、非常に悩ましいです。結果、価格が安い市場での購入が行えていないため、丸太に関して、平均単価は下がっていない状況。そのため、利益が厳しくなっている。

○遠藤 座長

次に合板の新栄合板工業前田部長お願いします

○新栄合板工業 堀営業部課長

前田が本日不在ですので製品について営業の堀から説明します。販売状況ですが、プレカットさんが稼働3割減、合板も3割減販売状況です。生産に関しても、需要以上に生産しても在庫が余ってしまうので3割減を続けている状況です。先行きについては、住宅動向が改善しないと需要にあった程度で先行きが見通せない状況です。価格動向ですが、資料2に関東の相場を書いてあったが、私ども九州に関しては、関東ほど価格は上がらなかったため、資料より低い価格のまま推移している状況です。本州に関しては、関東のほうも九州程度価格が下がっているということで、正直、価格維持力は合板もないかなという状況です。ただ、大

手メーカーさんの価格の指し値が厳しいのは事実ですが、製品は流通を通り製品を供給しているため、我々が率先して価格を下げてしまうと、流通在庫も評価損になり、大手の指し値は厳しいが、大手のみに対応してしまうと地域の工務店も非常に競争力が厳しくなってしまう。こういったこともあり、また流通の要望により価格維持を務めている、ただ、先行きに関してはわからない状況です。製品については以上です。

○遠藤 座長

ご指摘頂きました合板価格の関東地域と九州地域の価格差の背景はどのようなところにあるのですか？

○新栄合板工業 堀営業部課長

我々としては地域の工務店さまが多いため価格が上がり合板離れにつながってはいけないこともあり、社内の自社努力もあり価格上昇を抑えた背景があります。

○遠藤 座長

次に木材流通よりご意見を頂きたいと思います。伊万里木材市場さんお願いします。

○伊万里木材市場 伊東専務

原木と製品の市場の流通からお話させていただきますと、直近から原木価格は下がり調子です。一部ヒノキ等に関しては梅雨時期に入るのが例年より早いこともあり、価格は直近で上がっているが、製材、合板の話があったとおりそういった需要は弱く、原木の価格をあげていきにくい状況です。ただ、別の話でいくと市場へ出荷して頂いている森林組合さんや民間事業者さんの話を聞くと、所有者さんが伐採してみたい、生産してみたいといった意見が出ている、他にJクレジットや木材利用の協定を結びたいといった関心も向いていると感じます。

ただ、今までの経験で、冬時期は出材が減って、秋は相場・引き合い共によくなりますと見通しを伝えられたが、為替や景気、住宅の話があるとおり要因が多く、見通しがわからないため、今後よくなりますと断言できないことがあります。価格と需要と供給に安定的に 대응していくために、システム価格、契約販売価格の交渉や安定した供給を主力として、今年は厳しい状況になると思いますが、来年以降の国産材利用拡大も考え供給と価格の維持を考えたいと思っております。

○遠藤 座長

木材流通より住友林業さんお願いします。

○住友林業フォレストサービス九州事業部 金倉九州事業部長

国内に関しては非常に厳しい状況、海外、中国の需給はよろしくない、唯一救いが円安くらいで現地の需要も低迷している、単価が弱く、輸出事業に苦戦している。これから中国に関しては例年需要の落ちる目先の夏シーズンまで厳しい状況が続くのではないかと予想しております。輸出の概況は以上です。

○遠藤 座長

中国向けの国産材の丸太の輸出状況はいかがででしょうか？

○住友林業フォレストサービス九州事業部 金倉九州事業部長

各商社に関しては単価が下がってきている、集荷も含め燃料材の単価が南九州も含め非常に上昇してきている、なかなか売値は下がっているが仕入れが下げられないため、我々も含め各商社苦戦しています。

○遠藤 座長

製紙、パルプから中越パルプさんお願いします。

○中越パルプ木材 原田原燃料部長

製紙パルプは、紙パルプの販売については国内の需要は例年の右肩下がり、輸出で補っていた部分がありましたが、輸出、中国をはじめとして景気があまり良くない、輸出量、価格ともに落ち込んできているという状況です。ただ、弊社は5月6月の長期のメンテナンスシャットダウンに入り、工場が止まっているため5月半ば頃まで在庫をためるためフル生産をおこなってきました。工場が立ち上がり今年後半どうなるかということ国内も良くない、加えて中国あたりがどうなるかということもあり、生産販売状況の先行きの見通しが立たない、原木の方はCD材をメインに使用しているが、高止まりしている。原木価格は上昇したまま推移しています。

○遠藤 座長

住友林業フォレストサービスの金倉さんへご質問したいのですが、今回、日本のウッドショックを契機として国内におけるスギやヒノキの採材の寸法、3m、4m、2mそういった採材の寸法の変化は出てきていますか。

○住友林業フォレストサービス九州事業部 金倉九州事業部長

特に採材寸法の変化は出ていないです、ウッドショック前後、現状含めてですね。

○遠藤 座長

2m、3m、4mと、どの辺のサイズが売れ行きの良い悪いと捉えて良いのでしょうか？

○住友林業フォレストサービス九州事業部 金倉九州事業部長

売れ行きに関しては、3m関係は比較的動いており、4mの売れ行きが悪い。3mが動いていると言うことは柱関係が若干動いていると認識している。

○遠藤 座長

続いて川上に状況について、春から夏にかけての現状状況や今後の生産見通し、それからスギヒノキなどの樹種や、造材、採材へのニーズ、森林所有者の反応や状況、今後の生産体制に関する考え方等について聞きたいと思います、まず佐伯広域森林組合さんお願いします。

○佐伯広域森林組合 今山参事

丸太の話になりますが、量については、確保は順調です。九州は梅雨入りしたが、よかったのではないかと。梅雨のおかげで調整ができるようになった。価格についてはのきなみ下がっている。先月末の原木市の総平均が11,000円、ウッドショック前が10,000円と通年の相場だったので近づいてきたなと感じます。伐採の担当には伝えているが、夏の間は辛抱、山は急にブレーキをかけられないため、今のところかかとをあげた状態で、すぐにバックできるよう現場の末端にも伝えている、臨戦態勢です。

○遠藤 座長

なかなか厳しい状況ですね、森林組合から南那珂森林組合さんお願いします。

○南那珂森林組合 河野部長

アンケートにも答えたとおりでありますが、当地域の市況は軒並み下がっており、その影響でかなり出荷量も減少している状況です。今年に入り、様子が変わってきており単価が軒並み500円から1,000円、物により下がってきており、市場平均が12,000円を割り込んできているという状況です。このまま梅雨に入り、虫害の影響や天候不良により丸太の量が徐々に減ってくれば幾分か単価に影響があるのかなと、このあたりは注視をしていきたいと思っています。

しかし、出荷者からすると取り扱いは減ってきているが、ばたつき感がないという状況です。当組合としても、若干の生産量は低下しているのですが契約上の搬出期限、また資金繰りの関係、所有者との再生林の契約をしていることもあり、平準化はしていくべきと考えています。もちろん、単価が安いときに出荷制限を考えていきたいが、なかなか叶わないのが現状です。これから再生林、下刈りという保育作業を抱えているためトータルで考えていく必要があると思います。

○遠藤 座長

連合会より長崎県森連の小川部長お願いします。

○長崎県森林組合連合会 小川業務部長

長崎県としては、ウッドショック以降価格は下落傾向にあるが、コロナ・ウッドショック前の価格帯との比較であれば、それよりは良い状態が続いています。これは伊万里木材市場さんとの協定販売が一番大きいですが、全森連、商社を通じた安定供給という形で市況の乱高下に左右されにくい協定販売を前提とした体制ができていますからであり、大変ありがたく思っている。また各森林組合が出材したものを我々県森連が取りまとめて、販売させていただいているが、今は本県の森林組合が造林補助事業による間伐での出材であり、原木価格が高い安いで切るというスタンスではないため、市況の動きによって伐採量が減ったり増えたりは無い。

ただ一方で、森林組合も2回目、3回目の間伐で材積もあがらなくなっている、森林経営の観点、事業量の確保という観点から、資源の成長量も踏まえ、そろそろ主伐をしていかなければいけないという話になってきており、出荷量は増えていくことが予想される。その中で苗木の調達問題も出てきている。一方で国の花粉症対策事業の動きもあり、期待する部分もあるが、苗木調達、特に本県はヒノキの苗木の要望が多く調達問題をどうしていこうか考えている。輸出に関しては、価格的に厳しい状態は続いているが商社さん等に協力頂きながら、細々と販売価格の維持に努めたいと考えている。

○遠藤 座長

次に熊本県森連さんお願いします。

○熊本県森林組合連合会 田上事業部次長

長崎県森連さんと同じですが、うちは市場がないため各森林組合の状況を取りまとめた結果、ウッドショック前の価格に近づいている、更にその前に価格はスギで9,000円、ヒノキで10,000円の時期に比べると、今はスギで11,000円、ヒノキで14,000円と推移しているが、価格自体は下がり、元の価格帯に戻っているかと思えます、取扱量は熊本森林組合系統の市場が8市場ほどあるが、月に22,000から23,000取扱量は極端に変わっていないが、価住宅着工数や製品の動きが悪いところもあり、価格が上がっていかないのが現状かなと思っています。

○遠藤 座長

次に素材生産の分野に移りたいと思います、大分県の造林素材生産事業協同組合さんお願いします。

○大分県造林素材生産事業協同組合 清家参事

木材の価格、量については佐伯広域森林組合の今山参事さんがおっしゃったとおりに思っています。以前に比べると、価格は少し高い状態で推移しています。量については主伐が増えており、結果として再造林が増えています。このため、九州地

方は主に挿木苗生産ですが、採穂や挿付など苗木生産の面でも高齢化が進んでおり、困った状況になっています。加えて、植付や下刈が増加していますが、下刈は適期を短くとらえると作業配分が困難となることから、作業期間に幅を持たせてもらえると大変助かりますし、下刈の方法を検討頂けたらと思っています。また、以前木材価格が安いときはバイオマス発電でC材を利用してもらい、助かった面がありますが、最近九州全体でC材価格が上がっています。大分県内でもバイオマス発電用材を確保するため、以前に比べ相当上昇しています。なお、今後、住宅建設の動向によっては、材の安定需給が心配なところではあります。

○遠藤 座長

発言された価格の面で厳しい状況を余儀なくされている中で、大分県全体で見ると伐採量が増えていると、これはどういったふうに見たらよろしいですか？

○大分県造林素材生産事業協同組合 清家参事

需要もある程度増加していると思いますが、ウッドショックに引きずられている面もあるのかなと思っています。

○遠藤 座長

次に宮崎県の造林素材生産事業協同組合連合会さんをお願いします。

○宮崎県造林素材生産事業協同組合連合会 田原専務理事

宮崎県の方は、原木価格が下がってきています、他の地域が下がっていた中でスギの価格は比較的高値を維持していたが、今年に入り一気に下がってきた。昨年の段階で、製品価格のほうが下がってきている情報があり心配していたが、原木の価格はそれほど下がっていなかったものの、今年に入り、原木の価格も下がってきたのが明確になってきたため、今後の動向が気になっているところです。4月、5月に材価は大きく下がってきているが、時期的に皮がむけたり、虫食いもあるなど材質も悪いために価格が下がっているという要因も少しあると思います。ただ、出材量については会員さんに聞くと、あまり変わらずに出材は落ちていないと言っている。全員ではないですが何人かの方に聞いて、材の価格が下がることに一喜一憂せず、長い目で見て、下がったからと言って伐採量を落とす、搬出を少なくするようなことはせず、仕事を確保する、安定的に出材していくと話していた。あと、昨年の会議でも話したがバイオマス発電関係の業者の方々は材の確保に苦労している。そこそこで工夫されて、造園業者さんにも声をかけて出していただくなどの営業などして材の確保に苦労していると聞いています。原料の価格も上がってきているようです。

○遠藤 座長

次に国有林の九州森林管理局さんをお願いします。

○九州森林管理局 永野地域木材情報分析官

あちこち市場を回らせていただいております、状況を見ているところです。今年の計画も生産量については去年より増やし、みなさんの状況を見ながら調整をしていく必要があれば頑張っていくしかない、今月の後半、国有林材供給調整検討委員会の開催を局でも考えており、夏場から秋に向けてどういう風にしていけばよいか考えていけたらと思っています、よろしく願いいたします。

○遠藤 座長

森林整備センターさんお願いします。

○森林研究・整備機構 森林整備センター九州整備局 吉江水源林業務課長

今年度の販売予定数量は60万^m₃、間伐で3万2000^m₃、主伐等で56万8000^m₃、ある程度契約者の方との約束もあるため、価格等もありますが予定通り販売を実施していくことにしている。過去と比べてもセンターの契約の関係から主伐量等が増えている。契約に乗っ取り計画的に販売していく方針は変わりません、以上です。

○遠藤 座長

せっかくですので今日は各県からのご出席ということで、苗木生産のほうは全員残念ですがご欠席ではありますが、県の方から少しご意見いただけますか。

熊本県農林水産部 森林局 林業振興課さんお願いします。

○熊本県 農林水産部 森林局 林業振興課 遠山主幹

今日は直近のお話を聞き大変勉強になりました、県内の市場でも値段が下がってきている状況が見受けられており、かろうじてウッドショック以前の平均価格より高いくらいで、注視して見ているところです。一方で、発言にあったとおりバイオマス関係の値段は下がらず、上がっており厳しいと聞いています。今回非常に参考になったところです、

○遠藤 座長

次に宮崎県 環境森林部 山村部・木材振興課さんお願いします。

○宮崎県 環境森林部 山村部・木材振興課 廣末主査

状況は皆様が話されていた通りで、宮崎県では4月に原木価格がどんと下がり、県森連市場の平均価格で12,000円程度でしたが、更に下がると予想しています。景況感を製材所さん等に聞いていますが、どこも先行きは厳しいと聞いています。また、バイオマス材が、非常にひっ迫しており未利用材で8,500円、一般材で5,000円という価格帯が続いている状況です。

○遠藤 座長

今までわたしのほうから、ご指名しご発言という形を取ってきましたがご指名されなかった方の中で、ぜひ発言したいという方いらっしゃいましたらご遠慮なく挙手をお願いします。よろしいでしょうか。

そろそろ時間もせまってまいりました、今日は学識経験者代表で宮崎大学の藤掛先生にご感想、総括していただけたらありがたいです。

○宮崎大学 藤掛教授

貴重な情報をいろいろありがとうございました。前から想像されていたように今年は厳しいぞと前回ありましたが、ついに突入してきたなと感じました。その中で製材、集材品は価格の推移を見ても前よりはそれなりに高く、円安の影響であきらかに少しは高い、ただ素材は前と変わらないくらい落ちてきたという感じで、製品が高くても素材は同じように高くは買えないと思いますので、そういう風になるのかなと、素材の市場というのは製品市場と違い競争者が非常に多く、競争的で価格で調整せざるをえないことが強く出て、例えば製材工場、合板工場さんは減産されることをしっかりやられています、素材の方はそれが無い、よって価格で調整せざるをえない世界となっているので、その差額を調整してきていると、ただ、みなさん納得づくでやっていらっしゃる、多分、自分だけ調整してもしょうが無いことがあると思うけれど、素材の市場、供給側の難しいところかなと。

みなさんわかった上で、耐えようとやっていらっしゃるのかなと。これが、まさに、昨日一昨日で梅雨に入り雨が降ってきて、例年でいうと一番材価が安い時期で、例年の底値と比べれば、まだ高値だと感じています。今後、どういう風に上がり局面に戻っていければなというところですが、住宅着工等が先行き厳しいと伺いましたので、それが推移するか見守っていけたらなと、雑感ですが以上です。

○遠藤 座長

藤掛先生がおっしゃったように、今回のウッドショックそろそろ先が見え始め、素材生産の分野でかつてのように、自分さえ良いということは、あまり見られなくなった、素材生産業界において、やはり自分たちみんな考えていかないと、先生がおっしゃったとおり、価格だけで調整するのではなく、需要に見合った供給を業界全体としていこうかということを、考えていかないと、やっていけないぞという雰囲気が出てきたことがわたしは嬉しいというか、今後に繋げていけるのではないかなと評価しているのですがいかがですか。

○宮崎大学 藤掛教授

そうですね。そうなるとう良いですが、確かに協定取引が増えているところはあります、どうしてもそういうところは、お互いにと。10年くらい前に比べれば変わってきているかなと思います。

○遠藤 座長

協定取引の反故にされたとか、紳士協定だからいいやなどあったと思いましたが、今回見ていると、節度のないことされてないですね。たとえば協定として厳守していこうというのがあったというのは、わたしは自分自身としては嬉しい、今後に繋がっていけば、もっともっと日本の九州の素材生産は、発展していくのではないのかなと、望みや希望を感じています。ありがとうございました。

以上でシナリオ通りの進み方で進ませていただきました。わたしなりの感想を述べさせて頂くと、かなり厳しい状況を余儀なくされているのは事実だが、むしろ厳しい厳しいというよりは瀬戸製材の瀬戸社長がおっしゃったとおり、この中でどう教訓を学び、次の国産材の需要拡大に繋げていくべきかと、その辺のヒントも今の素材生産を含めて、見え始めたというのは大きなことなので、駄目だ駄目だ駄目だではなくその中から教訓を学んで、九州の森林林業木材産業、九州産の木材を需要拡大に持って行けるかというのを皆様方で考え始めたというのは、私は非常に大きなことではないかなと思います。時間も押し迫っていますが、林野庁から永島班長、ご感想なり総括をしていただけたらありがたいですが。

○林野庁 永島課長補佐

皆様、意見交換、議論のほどありがとうございます。総括は難しいですが、価格を見ていても下がっているところで現場の状況が少し心配というか懸念がありましたが、今日皆様の話を聞いていると、ウッドショック前と状況は違うとお話の中でわかりましたし、先生方のお話にあったとおり前向きな方向のお話も出たので、出たお話を基に課題の解決に向けて、具体的な取り組み、色々と、背景の中で難しいこともあるとは思いますが、各社さんがよりよい方向に行くようなことを見つけていったらと思います。また頂戴した意見も今後の政策に生かせる部分は拾っていきたいと思っています。ありがとうございます。

○遠藤 座長

今後とも林野庁のご指導よろしくお願いたします。また厳しい状況なのですが、もう一歩前に、前に進み出そうという勇気を頂いたような、そういう意味では非常に今日の需給協議会は任意深いものだったと思います。